

特別定額給付金10万円、その使途と効果

— 収入別にみた使い道と社会・消費者に期待される効果 —

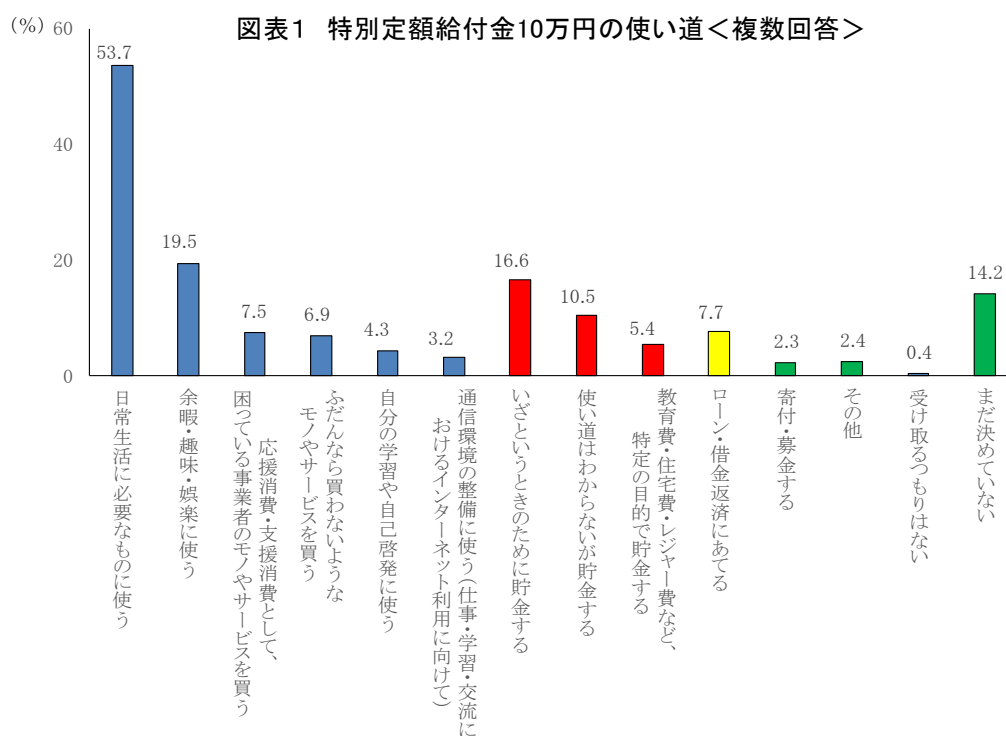
部長 兼 主席研究員 宮木 由貴子

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、様々な側面で人々の意識や行動が変化している。本稿では、緊急事態宣言が一部解除された翌日の2020年5月15～16日に当研究所が実施した「第2回新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査」*1をもとに、支給が開始された特別定額給付金の使い道について考察する。

<給付金は「日常生活に必要なものを使う」>

令和2年4月20日、「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」が閣議決定され、新型コロナウイルスによって影響を受けた家計への支援策として、1人あたり10万円の特別定額給付金の支給が決定した。その事業費は12兆8,802億93百万円（給付事業費 12兆7,344億14百万円、事務費 1,458億79百万円）とされる。給付対象者は4月27日において住民基本台帳に記録されている者で、世帯主が受給権者となる。

これに対し、「新型コロナウイルス感染症対策として国民に給付される10万円（特別定額給付金）について、あなたはどのように利用しようと思いますか。もしくは、何の費用の足しにしようと思いますか」と複数回答でたずねた（図表1）。



その結果、53.7%の人が「日常生活に必要なものを使う」と回答した。自粛生活が長引いたこともあり、収入が減少した人などを中心に日常生活費にまわす人も少なくないようだ。これに、「余暇・趣味・娯楽に使う」とする人が約2割で続く。

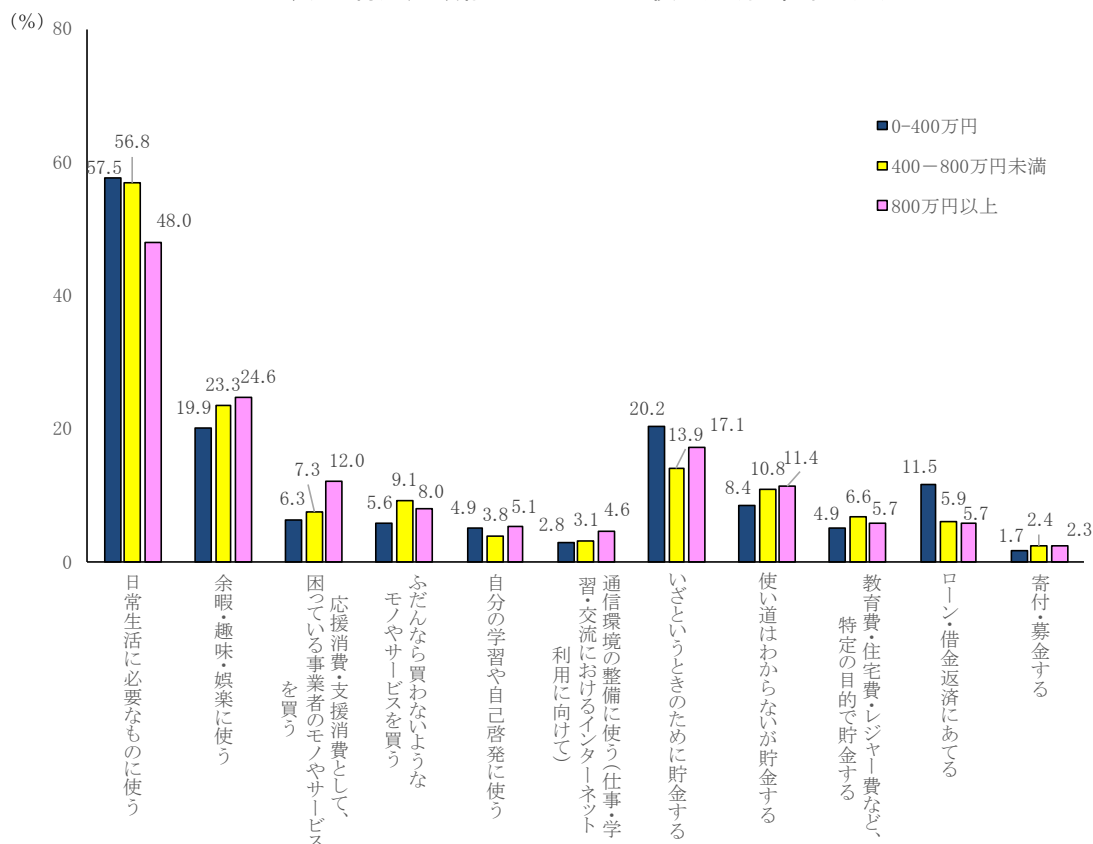
これらに続くのが、「いざというときのために貯金する」(16.6%)となった。また、「使い道はわからないが貯金する」「教育費・住宅費・レジャー費など、特定の目的で貯金する」とした人も一定数おり、使わずに貯めておくという人もある程度いることが確認された。

「応援消費・支援消費として、困っている事業者のモノやサービスを買う」とした人は7.5%、「寄付・募金する」は2.3%と、いずれも少数にとどまった。

<収入別・家計への不安の有無別の傾向>

これを、世帯収入別に比較したものが図表2である。過去1年間の収入について「わからない・答えたくない」とした人を除く人の世帯収入を3つに区分して比較したところ、年収が800万円未満の人では「日常生活に必要なものを使う」とした人が57%前後を占めた一方で、800万円以上の人では48%にとどまっていた。

図表2 特別定額給付金10万円の使い道(世帯年収別)



注1: 家族全員の世帯年収(ひとり暮らしの人は年収)について、「わからない・答えたくない」とした人を除く749人対象

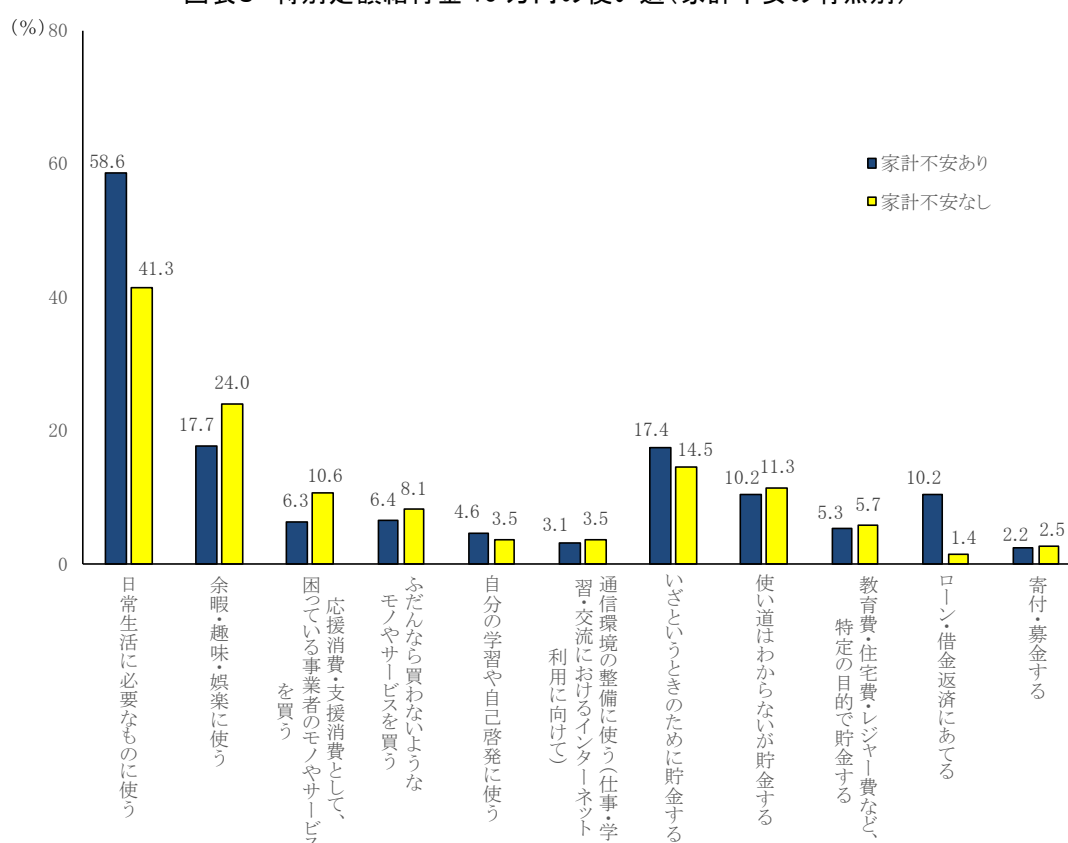
注2: 「その他」「受け取るつもりはない」「まだ決めていない」は非掲載

逆に、年収が高いほど多かったのは「余暇・趣味・娯楽に使う」「応援消費・支援消費として、困っている事業者のモノやサービスを買う」となっている。

貯蓄やローン返済についてみると、年収が400万未満の人で「いざという時のために貯金する」「ローン・借金返済にあてる」とする人が、他の年収の人に比べて高かった。

さらに新型コロナウイルス感染拡大に関して「家計が苦しくなること」への不安の有無別に比較した（図表3）。その結果、「日常生活に必要なものに使う」とした人は「家計不安あり」の人で58.6%であるのに対し、「家計不安なし」では41.3%と、17.3ポイントの差があった。また、「余暇・趣味・娯楽に使う」は「家計不安なし」が24.0%と4人に1人があげたのに対し、「家計不安あり」では17.7%となっていた。

図表3 特別定額給付金10万円の使い道(家計不安の有無別)



注1:「家計が苦しくなること」について「非常に不安」「どちらかといえば不安」とした人を「家計不安あり」、「全く不安ではない」「どちらかといえば不安ではない」とした人を「家計不安なし」として比較

注2:「その他」「受け取るつもりはない」「まだ決めていない」は非掲載

このように、収入や家計不安の状況によって給付金の使途は異なり、「10万円」の意義・とらえ方が様々であることが確認された。

<期待される効果>

長期化が予想されるコロナ禍における課題は、感染や経済的な側面だけでなく、新型コロナウイルス以外の心身の健康や人とのつながり、ストレスなど、領域が多岐にわたる。緊急事態宣言の解除により、安心感よりも不安感が増したとする人が多い*²中、6月2日には東京アラートが発動されるなど、感染の第二波も懸念されている。

こうした中、自粛によって失われた経済活動に対し、特別定額給付金が消費にどの程度のインパクトを与え、経済効果としてどう表れるのかに対する関心は高い。この給付金は、一時的な家計の足しとしてのみならず、余暇や趣味、自己啓発などで使うことで精神的なゆとりを得ることや、普段なら使わないようなモノ・サービスを購入することによるストレス解消などにもつながるだろう。経済的・精神的に余裕がある人では、支援・応援消費や寄付・募金という使い方をし、利他的な行動による安寧を得るかもしれない。貯蓄することでの日常生活の安心感を高める人もいるだろう。特別定額給付金が日々の生活にどの程度の影響を及ぼすかは、人によってさまざまであり、その効果は必ずしも数字として表れるものだけではないといえる。

10万円という限られた金額は、何も考えずに使ってしまえば、またたく間になくなる金額である。しかしそれを現在のコロナ禍における自らの生活に「どう使うか」「どう活かすか」という意識を巡らせることは、長期化する新型コロナウイルスとの戦い（with コロナ）と、その後に訪れる共生社会（after コロナ）における、一人ひとりのライフデザインを考えるきっかけになりはしないだろうか。例えば、家族で使い道を考えることで、これからの暮らし方について再考する機会を持つてはしないだろうか。

そうした効果が見込めるのだとすれば、10万円という金額は一人ひとりにとってより大きな意味をもつだろうし、事業費12兆8,802億93百万円は社会にとってより大きな意義をもつだろう。つまり、10万円の効果を最大にすることができるのは、この給付金で「できること」を改めて考える消費者自身といえるのではないだろうか。

（ライフデザイン研究部 みやき ゆきこ）

【注釈】

*1 調査の方法や結果の概要は、当研究所発行の以下のニュースリリースを参照されたい。

「第2回 新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査（働き方編）」

http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2005_02.pdf

「第2回 新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査（消費編）」

http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2005_03.pdf

「第2回 新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査（健康編）」

http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2005_04.pdf

「第2回 新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査（つながり編）」

http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2005_05.pdf

*2 この結果は筆者の別稿「データでみるコロナ禍での『感謝』と『怒り』」中の図表4で紹介

している。

<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/wt2006.pdf>

* 弊社ホームページの「新型コロナウイルス意識調査特集ページ」にて、
これまでに実施した調査のリリースやレポートを公開しています。

http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/ldi/total.cgi?key1=v_year